

奥入瀬溪流の利活用検討 NEWS

(平成29年4月発行)

第4号

発行者：奥入瀬溪流利活用検討委員会事務局（十和田市・青森県・国土交通省）

このニュースレターは、「今後の奥入瀬溪流の利活用」について、地域の皆さまとのコミュニケーションの状況を広くお知らせするために発行しています。

今後の奥入瀬溪流の利活用に向けて

奥入瀬・十和田地域の目指す姿（奥入瀬ビジョン）

の本格的な検討が始まっています

現在、国道103号奥入瀬（あおぶなやま青楓山）バイパスの整備が進められています。

バイパスが整備されると、道路空間を柔軟に使うことが可能になり、観光振興、ひいては地域づくりにも大きく影響します。そして、地域の皆さまの生活にも少なからず影響があると考えられます。

そこで、行政と地域の皆さまが一体となり、奥入瀬の交通規制だけでなく、観光振興、地域づくりまで含め、「**地域の目指す姿（＝奥入瀬ビジョン）**」の検討が進められています。

奥入瀬ビジョン

これまでの検討

平成27年度 予備検討として、奥入瀬溪流の利活用に関する講演会・ワークショップが3回開催され、地域の課題や魅力的な資源について共有するとともに、奥入瀬ビジョンの策定を今後どのように進めるのかについて、活発な議論が交わされました。（ニュースレター創刊号～3号参照）

平成28年度 ワークショップが3回開催され、奥入瀬ビジョン検討の進め方と、地域の目指す姿（案）について、検討を行いました。（詳しくは、2・3ページ）



奥入瀬ビジョン

今後の検討

平成29年度 平成29年度は、地域の目指す姿（案）に基づき、交通や観光など各分野の戦略案、および計画案を考えます。その結果も踏まえ、奥入瀬ビジョンの内容を見直し、とりまとめを行う予定です。（奥入瀬ビジョンの検討体制・検討の進め方は4ページ参照）



国道103号奥入瀬（青楓山）バイパス事業

一般国道103号の十和田市青楓山～十和田市子ノ口（奥入瀬溪流沿いの道）は、急勾配で道幅の狭い区間や通行規制区間があり、通行上の課題となっています。

奥入瀬（青楓山）バイパスは、それらの課題を解消し、安全で円滑な交通の確保を目的とする道路です。

平成25年度より、直轄権限代行事業として青森河川国道事務所が整備を進めています。

奥入瀬（青楓山）バイパスが整備されると

災害時に被災箇所を通らずに、安全な通行の確保が可能になります。

また、奥入瀬溪流沿いの自然環境が保全され、散策時の安全性や快適性が向上することも期待されます。



第1回：地域の課題を出し合いました。
 第2回：地域の価値とは何か、地域で提供できることは何かを話し合いました。
 第3回：価値をつなぎ合わせると、どのようなストーリーになるのかを考えました。

■は、ワークショップで寄せられたご意見
 太文字は、地域の目指す姿（案）に関連する部分

■今ある資源を最大限活かして、**五感で楽しむ地域**を再構築する必要があると思う。五感を通して地域の魅力を理解すると、**癒され**、さらに深く知りたくなるのではないかと。**地域再訪のきっかけ**にもなるだろう。

■新渡戸による穴堰整備は、**湖・溪流・開拓をつなぐ物語**である。湖水を用水路で市街地まで引いている。
 ■五感で地域を堪能すると、知的好奇心が刺激され、地域の自然・形成史を**学びたく**なるのではないかと。

■奥入瀬溪流の流れ、水の透明感、散策路と水面の近さ、倒木更新による景観変化等、**溪流美**は別格である。
 ■春は新緑・春もみじ、秋は紅葉、冬は着雪した枝・しぶき水・氷柱等の**水の芸術作品**が楽しめる。

■**国立公園や特別名勝に指定された理由**を理解すると、深い価値に気付くことができるだろう。
 ■案内人から、コケの世界・草木の芽生え・動物との関係等、**小さな命のつながり**について解説が聞けるとよい。

■十和田神社は、**水神信仰の場**であり、休屋は、神社に参詣する際の休憩場・**神の領域と俗世の境**であった。
 ■十和田信仰の面白さを知り、**地域住民として学びたい**という気持ちが強くなった。来訪者には、**パワースポット**として、魅力を分かりやすく伝えたい。

地域の目指す姿（案）

※事務局による

五感に訴える
自然回帰の地

十和田湖と
奥入瀬溪流は
学びの地

大地が織りなす
造形美

天然の
自然史博物館

心身を浄化する
聖地

アイデンティティ
(帰属意識)
をもたらす地

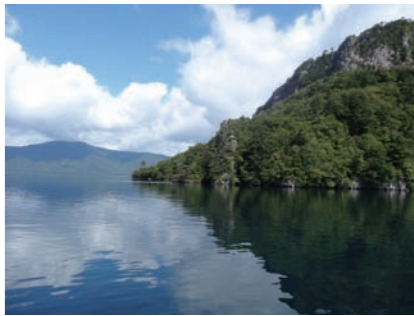
人と人との
触れ合い
国際交流の地

春夏秋冬
いつでも
アクティビティ

郷土の恵み（食）

自分再興
(ルネッサンス)
の地

3回のワークショップで寄せられたご意見をもとに、地域の「どのような資源を」「誰に」「どのように」堪能してもらうことが価値となるのかを明確にし、地域の目指す姿（案）として示しました。



■十和田湖と奥入瀬溪流の形成史を踏まえて、点在する資源を線として繋いで紹介し、**コアな奥入瀬ファン**が周遊・滞在できるようにするとよい。**地域住民も形成史を理解**し、資源を線として繋ぐストーリーづくりをしてはどうか。

■**地域住民が学んだことを来訪者に伝える**ことで、地域の魅力を再認識したり、新しく発見したりできるだろう。地域住民にとって、環境教育・生涯学習・健康増進の効果も期待できる。

■湖岸を一周する「十和田湖ウォーク」は、標高差があつてきついが、ゴール時に達成感を感じられる。
 ■**オールシーズン**で、地域ならではの新しいアクティビティを提供し、**来訪者に達成感**を味わってもらいたい。

■そば・小麦、ばっけみそ等の山菜の郷土料理、ヒメマス・卵入りのワカサギ等があり、**食で楽しみ**を提供したい。

■「**自分再興(ルネッサンス)の地**」が最終的なゴールになると考えられる。地域住民から来訪者まで全ての主体にとって、地域での体験から自分の立ち位置を見つめ直し、**新しいスタートを切る**（生まれ変わろう）という気持ちになれることが価値ではないか。



地域の価値を実現するための課題

- 地域までの公共交通**が乏しく、また、**地域内の移動も不便**である。特に冬季が厳しい。
- 焼山と十和田湖エリアのそれぞれに、**ビジターセンター**のような拠点を充実させる必要があると思う。
- 情報発信が不足**しており、宣伝・ガイド・パンフレットを充実させるべきである。外国人向けの多言語対応も必要ではないか。

- ターゲットとする観光客を明確に設定できていないと思う。国内では団体旅行が減り、個人旅行へ移行している。コアな個人客へのコンテンツをつくり、リピーターを獲得したい。昼は自然体験、夜は歴史文化体験等、**コンテンツの選択肢**を広げることで、滞在型観光を推進できないか。
- 外国人観光客を受け入れすぎて、地域の個性が失われないように、**地域の個性を残す**必要があると思う。

地域の価値を実現するためにできること（したいこと）

- 地域の事業者や住民が連携して取組みを地域全体に拡大し、活性化につなげたい。そのためには、交通・飲食・宿泊等、**様々な業種や専門家が協働するプロジェクト**を企画調整できる人材・組織が必要ではないか。
- 郊外学習・遠足・ボランティア活動等、**子どもが地域を学んだり、来訪者と交流**したりする機会をもっと増やしたい。

- 来訪者に地域の価値を提供できたのか、取組みに効果があったのか等を振り返って検証し、次の取組みとして改善するために、**調査・研究**をしていきたい。また、調査・研究に留まらず、**取組みの実行部隊**となれるようにしたい。大学等と連携ができると良いだろう。
- 十和田信仰**について、来訪者に魅力を伝えられるまで、もっと勉強したい。

奥入瀬ビジョンの検討体制・検討の進め方

平成 29 年度も引き続き、ワークショップと地域協議会を開催します。

ワークショップでは、奥入瀬ビジョン作成のための検討材料となる意見を出していきます。

また、地域協議会では、ワークショップでの意見を踏まえ、奥入瀬ビジョン案を作成し、県知事や市長がオブザーバーを務める検討委員会などの行政組織に提案をしていきます。

なお、ワークショップや地域協議会では、行政と地域の皆さまが一体となって、密に対話ができるように、ファシリテーターが入って検討を進めます。

● 地域協議会メンバーはどのように選ぶの？

ワークショップでの意見を踏まえ、10 名程度メンバーを選定します。交通、福祉、ボランティア、研究機関、地域おこしの各分野から 1 名ずつ、また、町会、観光関係施設、宿泊施設（ホテル・旅館）、商業施設からは、地域の偏りが生じないように選定します。

● ワークショップに参加するにはどうしたらよいの？

下方の問い合わせ先「奥入瀬溪流利活用検討委員会事務局」までご連絡お願いいたします。

会議名	奥入瀬利活用 検討委員会	奥入瀬利活用 検討部会	奥入瀬 地域協議会	ワークショップ
役割	奥入瀬ビジョン案 への助言	奥入瀬ビジョン素案 を調整のもと承認	事務局と連携し 奥入瀬ビジョン案を作成	
検討内容		検討結果 を報告	調整	奥入瀬ビジョン案 に関して意見だし
平成 28 年度				
体制・進め方の検討	●	●	● 第 1 回	● 第 1 回 地域の課題の検討
地域の目指す姿（案） の作成	●	●	● 第 2 回 地域の目指す姿（案） の作成	● 第 2 回 地域の価値の検討
平成 29 年度				
戦略案の作成	●	●	● 第 3 回	● 第 3 回 ストーリーの検討
交通・観光計画案等 の作成	●	●	● 第 4 回	○ 第 4 回
戦略案の見直し	●	●	● 第 5 回	○ 第 5 回
奥入瀬ビジョン のとりまとめ	●	●	● 第 6 回	○ 第 6 回
	●	●	● 第 7 回	○ 第 7 回
	●	●	● 第 8 回	○ 第 8 回
	●	●	● 第 9 回	○ 第 9 回
	●	●	● 第 10 回	○ 第 10 回
	●	●	● 第 11 回	○ 第 11 回

平成 30 年 4 月ごろ

奥入瀬ビジョン

***** より良い「奥入瀬ビジョン」策定に向け、今後ともよろしくお願ひいたします *****

これまで開催されたワークショップ概要、ニュースレター創刊号～3号、国道103号奥入瀬（青楓山）バイパスの事業概要、奥入瀬溪流エコロードフェスタ情報については、下記サイトにて公開されています。

「国道102号（奥入瀬溪流）の利活用に関する取組みについて紹介します」（青森県ホームページ）

<http://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/kendo/doro/oirase-r102.html>

お問い合わせ先

奥入瀬溪流利活用検討委員会事務局（十和田市観光推進課）
〒034-8615 十和田市西十二番町 6-1 TEL：0176-51-6772